

# ものづくり補助金 2020年度の状況（2021年2月現在）

(1) 2020年度は従来とは異なる仕組みになりました。

## 主な変更点

- 通年募集で3カ月ごとに締め切りがあります。（従来は年2回程度）
- 事業実施期間が交付決定後10カ月あります。（従来は5～2カ月程度）
- 給与支給総額上昇が必須要件になりました。（従来は加点項目の扱い）  
給与支給総額の伸び +1.5%以上/年、最低賃金 県規定時給+30円
- 申請はすべて電子化されています。（事前にIDの取得が必要）

(2) 第2次から第4次公募はコロナ対応特別枠が追加設定され、コロナ禍の影響を受ける中でも積極的な投資を行う事業者を支援するようになっています。

制度	種別	補助率	対象経費
通常枠 (令和元年度 補正予算)	小規模事業者対象	2/3	機械装置・システム構築費(必須) 外注費、技術導入費、専門家経費、 運搬費、原材料費、クラウド利用 費
	中小企業者対象	1/2	
コロナ特別枠 (令和2年度 予算)	A類型	2/3	上記に加えて、 広告宣伝費、販売促進費 事業再開枠として感染防止対策費
	B類型、C類型	3/4	

A類型：サプライチェーン毀損対応

B類型：非対面型ビジネス転換

C類型：テレワーク整備

# ものづくり補助金 2020年度の申請件数と採択率

## 申請件数と採択率

2次締切よりコロナ特別枠が設けられたことから、コロナ枠の申請件数が多くなっています。特に第4次はコロナ特別枠の最終公募となり、大幅に増加しました。

一方、申請件数の増加により採択率は3次、4次では大きく低下しています。

1次から4次の合計採択件数は10,465件です。（過去7年間の平均採択率は約40%、採択件数は、8,000～14,000件/年）



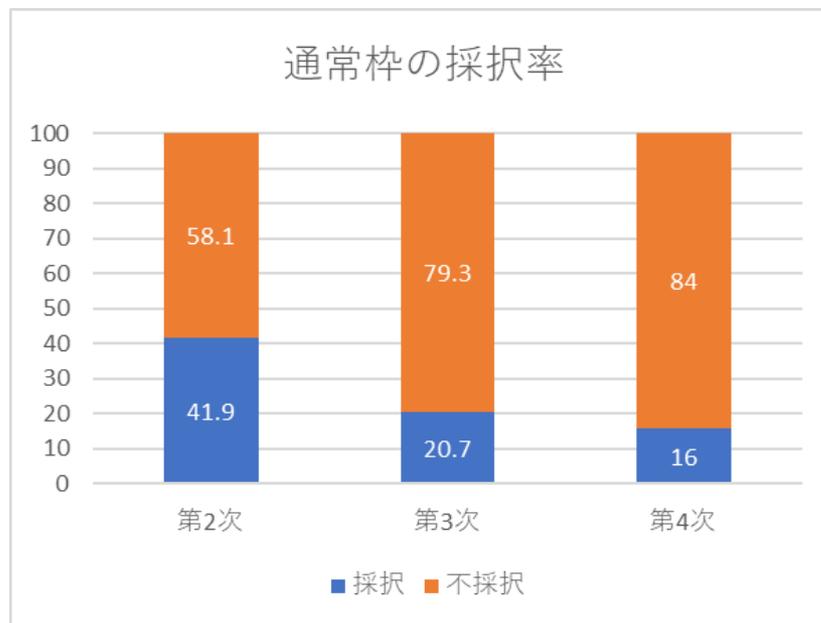
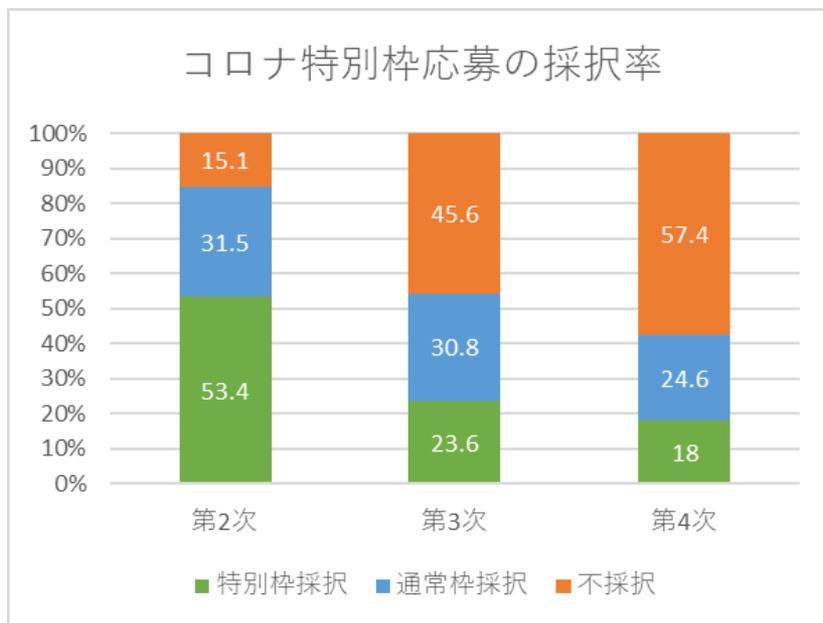
出典  
ものづくり補助金総合サイト  
<http://portal.monodukuri-hojo.jp/dataportal.html>

# ものづくり補助金 2020年度の採択率分析

## コロナ特別枠と通常枠の採択率の分析

第2次から第4次について、コロナ特別枠と通常枠の採択率を以下のグラフに示します。コロナ特別枠の場合、特別枠の審査で不採択の場合、通常枠で再審査され、この際にコロナ枠事業としての加点が考慮されます。このため、コロナ特別枠応募の方が高い採択率となっています。特別枠と通常枠変更を合わせた採択率は第2次では85%、第3次以降では大幅に低下していますが、第4次で42.6%となっています。

一方、コロナ禍の影響とは無関係の通常枠で申請した場合、第2次では例年並みの42%の採択率でしたが、第3次以降では大幅に低下し、第4次ではわずか16%となっています。コロナ禍の影響で申請件数が増加したことと予算枠の関係で、後半は厳しくなったことがうかがえます。



# ものづくり補助金 2020年度 加点項目の影響

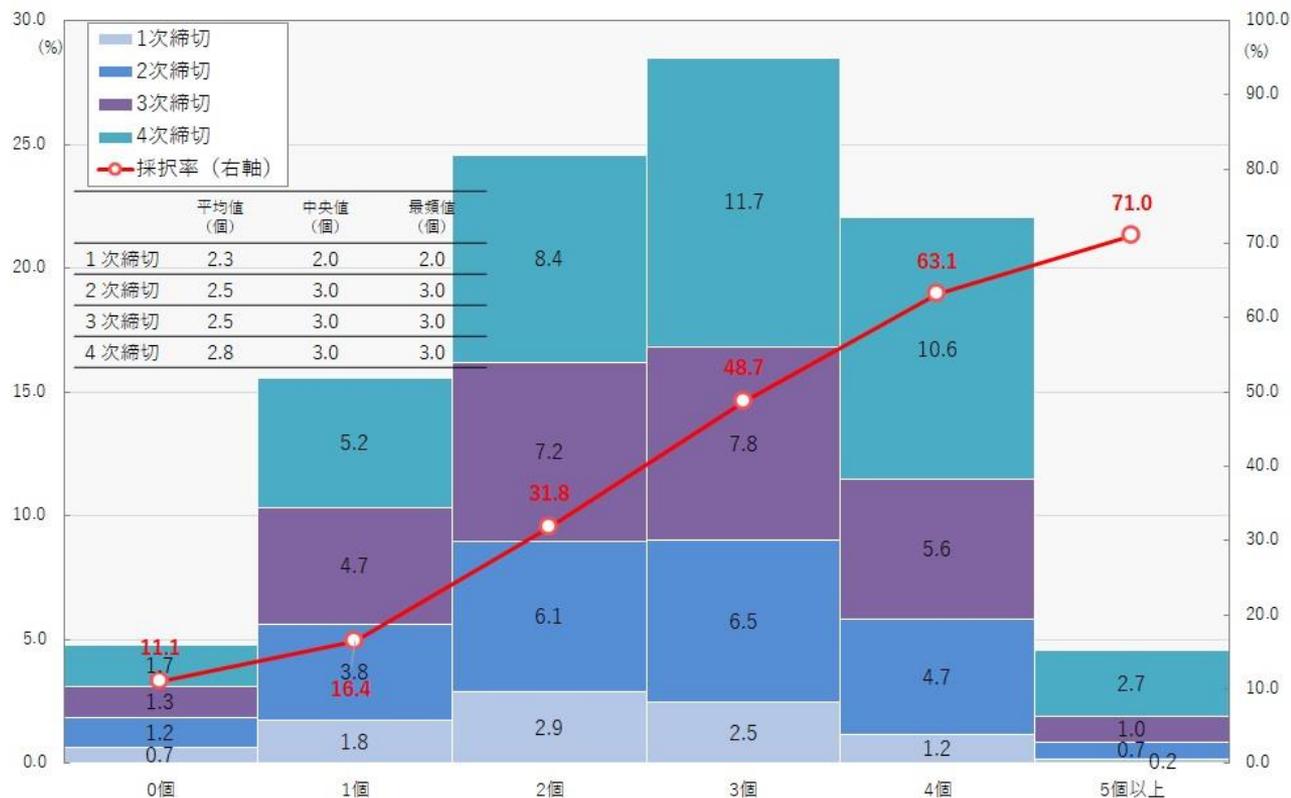
## 加点項目数別件数と採択率

審査の中心は事業計画書の内容であることはもちろんですが、**加点項目の件数が採択に大きく影響**していることが以下のグラフから分かります。

申請準備において事業計画書をしっかり作り上げることと並行して、**加点項目についても取り組むことが重要**になっています。

### 加点項目：

- コロナ禍を克服するための事業
- 経営革新計画の承認
- 事業継続力強化計画の認定
- 最低要件を超える給与総額引き上げの取組み
- 小規模事業者



出典

ものづくり補助金総合サイト

<http://portal.monodukuri-hojo.jp/dataportal.html>